

都市デザイン研究室

Urban Design Laboratory

Staff ▶ 教授: 浅野純一郎 (Junichiro Asano)
 助 教: 辛島 一樹 (Kazuki Karashima)
 助 教: 劉 一辰 (Yichen Liu)

Key Word ▶

土地利用計画、土地利用規制、都市デザイン、都市計画史、都市形成史
 Land Use Plan, Land Use Control, Urban Design, History of Modern Urban Planning and City Making

E-mail ▶ asano@ace.tut.ac.jp (浅野)
 k-karashima@ace.tut.ac.jp (辛島)
 liu@ace.tut.ac.jp (劉)

Web ▶ <http://urbandesign.web.fc2.com/MOTHER-hp/STU-hp/index.html>

テーマ1 ▶ 土地利用計画・土地利用制度研究

Study on Land Use Plan and Land Use Control in Japan

【研究概要】人口減少・経済低成長時代を迎え、地球環境への影響をも踏まえた都市づくりが求められている。特に地方都市ではコンパクトで持続可能な都市が求められている。こうした都市づくりの是非に大きく影響するのが土地利用計画である。本テーマでは、地方都市の郊外土地利用計画に着目し、都市計画区域、線引き制度、開発許可制度、地区計画制度、自治体自主条例等の土地利用規制制度を精査しながら、開発の実態と制度・運用との齟齬を明らかにし、その問題点を追求する。2015-2016年度は、逆線引き(市街化区域→市街化調整区域)の運用状況、都市縮小対策に関する国際比較研究、立地適正化計画の策定状況に関する研究、公共公益施設統合の実態に関する研究を進める予定である。

テーマ2 ▶ 近代都市計画史・都市形成史研究

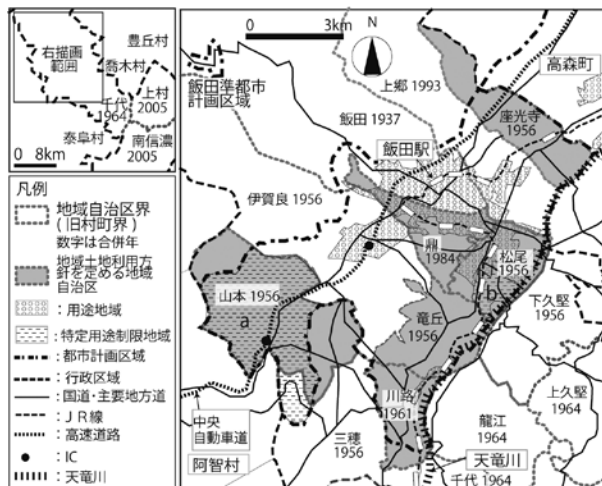
Study on History of Modern Urban Planning and City Making in Japanese Cities

【研究概要】日本の近代都市計画史研究は、大都市や大戦時代の植民都市において先行し、国内地方都市においてはまだ十分な解明が行われていない。本研究では、比較的初期に旧都市計画法が適用となった内地の地方重要都市を主対象として、戦前から戦災復興期の計画思想や計画技術を明らかにする。また、その今日的意義や現在の都市計画との継続性・断絶性を明らかにする。近年の成果として、戦災復興都市計画の意味・意義や計画技術の導入法を戦前都市計画との関係から明らかにした。2015-2016年度は、戦災復興都市計画による土地利用計画と線引き制度導入期の土地利用計画との関係に焦点を当てる予定である。

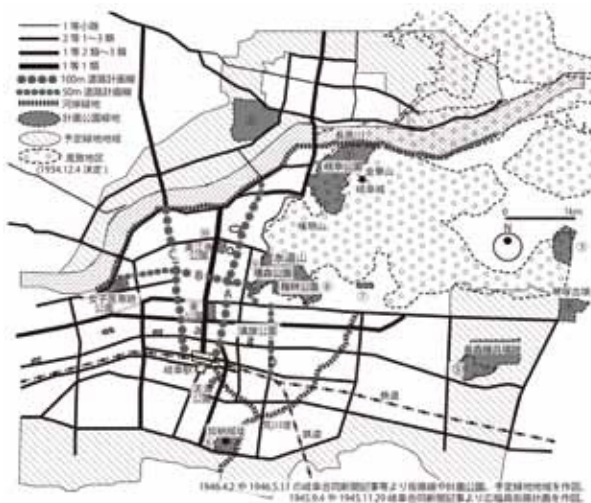
テーマ3 ▶ 都市デザイン研究

Study on Urban Design Method

【研究概要】地区レベルのスケールで2次元的な土地利用計画だけでなく、建物の形態・意匠といった3次元的なデザイン、多様な計画主体の参画を前提としたプロセスや計画実現の為に制度・収支マネジメントまでを含むのが都市デザインの課題であり、豊かな都市空間の創出の為に新たな価値や地域的な計画資源を発掘するのも都市デザイン研究の課題である。2015-2016年の課題として、戦災復興都市計画と近年の中心市街地活性化(中活)施策との関連性に着目し、復興土地区画整理事業による基盤が中活による土地区画整理や再開発事業にどう活かされているのかを明らかにする。



飯田市の地域自治区界と地域地区指定状況



岐阜戦災復興都市計画の当初構想関連図

- ・善光寺の参道軸線の謎の解明(左)
- ・「犬神家の一族」(1966年)で撮影された上田の景観(中)
- ・2002年夏の同じ場所の景観(右)



「都市計画研究宣言:手段としては都市デザイン、精神としては地方都市主義、態度としては都市・建築味到!!!」
 これは、有名な「都市創作宣言」、「手段としては区画整理、精神としては小都市主義、態度としては都市味到」をもじったものです。
 私の研究スタイルと目標・目的を過不足なく示す宣言文として、掲載します。